

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171200233
法人名	有限会社 ベターライフ建築事務所
事業所名	グループホーム いっぽ
所在地	三養基郡みやき町大字菘原3067-2 (電話) 0942-94-9188

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年4月3日	評価確定日	平成 20年5月12日

【情報提供票より】(平成20年3月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	常勤 5 人, 非常勤4人, 常勤換 2.8 人		

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(3月21日現在)

利用者人数	8 名	男性	名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.5 歳	最低 75 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上野クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

脊振山系の南側に位置し、ホームの玄関から北を望むと、山の中腹に「風の神様」を祀る神社として、県内外より多くの参拝者を集めている綾部神社を眺めることができる。
訪問時は、遠くに見える神社の桜が満開の季節で、美しい絵の中にいるような気分を味わうことができた。このような豊かな自然の中で、家族的な雰囲気を大切にし、入居者と職員が信頼関係を築きながら、穏やかに生活をされているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と職員は、取り組むべき課題と目標を理解しているが、運営推進会議や避難訓練がまだ実施されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での取り組むべき課題と目標をスタッフルームに掲示し、改善に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の開催意義は理解しているが、開催されていない。現在は地域の方との連携づくりに勤めている段階である。今後委員の選定とともに、早い時期での開催が望まれる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関には意見箱が設置されている。また、入居者、家族等の意向を聞き、運営に反映している。外部への相談窓口については、重要事項説明書に記載している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者が地区の草取りや、ゴミ拾い等の地区の活動や自治会に参加している。入居者は地区の行事に参加している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのかかわりを大切に考えながら「一人ひとりの個性を重視した尊厳のある暮らしの実現を目指す」という理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を集約したものを、入居者や家族の目に付きやすい玄関に掲示している。また、管理者が職員に対し、そのつど理念の実践の意味をこめて話をしている。	○	理念の実践のためには、職員会議などを開催し、理念の共有をしていくことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が地区の草取りや、ゴミ拾い等の地区の活動や自治会に参加している。入居者は地区の行事に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価での取り組むべき課題と目標をスタッフルームにかかげ、改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催意義は理解しているが、開催されていない。現在は地域の方との連携づくりに勤めている段階である。	○	地域の情報収集や、さまざまな方の意見を聴く場として、定期的な運営推進会議を実施し、そこでの意見等をサービスの向上に活かしていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会には参加しているが、担当行政との連携はほとんどなされていない。	○	担当行政と馴染みの関係を作り、さまざまな情報の提供を受けながら、入居者のサービスの向上に努めることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者一人ひとりの様子を「いっぽ新聞」に記載して、個別に発行している。また面会の際に相談を受けたり、面会の回数が少ない家族へは、写真を送ったりしてホームでの暮らしぶりを報告している。金銭出納については、面会に来た家族に、金銭出納簿へ確認のサインをもらうようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱が設置されている。また、入居者、家族等の意向を聞き運営に反映させている。外部への相談窓口については、重要事項説明書に記載している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	働きやすい職場作りに努めているため、職員の入れ替わりはほとんどない。離職があった場合は、「いっぽ新聞」に掲載したり、入居者に説明している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修は受講している。職員から研修の参加希望がないため、施設長が指示をして参加してもらっている。研修報告の機会がないため、研修の内容が活かされる機会が少ない。	○	研修への参加は行われているが、研修報告の機会がない。研修の成果を有効に活用し、職員の質の向上のため職員会議等の開催を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に鳥栖みやき地区の地域ケア会議に参加し、他のグループホームと状況報告や事例検討を行っている。施設長が参加できないときは、他のスタッフが参加し、記録はいつでも見られるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には、家族等より本人の状態を聞き取り、見学や体験利用をしてもらっている。入居時は、家族と連携を図り、本人が落ち着くまで散歩をしたり、入居者が好きなことをして、不安を和らげるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事活動やレクリエーション活動を通して、入居者と職員が共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活を通して、本人や家族から、希望される暮らしを聴き取り、ケアの質の向上に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフが本人、家族の意見を聞き、介護計画を作成している。ケア会議に参加できる入居者は参加してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、ケアチェック表をもとに評価を行い、3ヶ月から6ヶ月で定期的に見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護の受け入れや、美容院や買い物のための外出等、入居者や家族の状況に合わせた柔軟なサービスを提供する体制が整っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にホームの協力医に受診をするが、本人、家族が希望すれば、希望するかかりつけ医に通院支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで看取りは1名おこなったが、そのケースに合わせて方針を作って対応した。家族の希望により、看取りは可能であるが、重度化した場合の対応について、本人、家族との話し合いが行われていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族の意向を聞き、早期に指針を作成することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常のケアの中でプライバシーを損なわないよう注意している。個人情報については、スタッフルームに管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせて食事時間や入浴時間を考慮し対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせて、入居者と職員は共に調理や配膳、片づけを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、入居者の希望があれば随時対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの入居者の意向に合わせて、外出やドライブ、花見に行ったり、レクリエーションの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に合わせて、食材の購入に出かけたり散歩などの外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	段差のある通用口のドアは、安全のために施錠されているが、玄関の戸は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の計画や緊急時の連絡体制表は整備されているが、災害時のマニュアルがなく訓練は実施されていない。	○	早期に災害時のマニュアルを作成し、地域住民や民生委員、近隣の消防署の協力を得て、計画されている避難訓練の早急の実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりのチェック表を作成し、食事、水分補給等について毎日チェックしている。入居者一人ひとりの状態に合わせた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、入居者が作成した作品や、行事等の写真を掲示し、居心地よく過ごせるように工夫している。しかし、トイレの換気が十分にできていない。	○	入居者が居心地よく過ごせるように、トイレの換気の改善を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が落ち着くように、なるべく入居前に使用していた物を持ってきてもらうようにしている。		